

# 日舞でワクワク国際交流

伝統芸能コース

## 日本舞踊



講師  
フジマキカン子  
藤間勘素櫻

### 略歴

日本舞踊家・藤間流名取  
1989年カリフォルニア州立大学教育学児童心理学科卒業。  
90年ミシガン大学大学院創作舞踊専攻卒業。96年“Tanz Project”(ドイツ)「藤娘」公演、1999～2000年“Abbaye de Royaumont”(フランス)日舞ワークショップ公演、03年「アジアダンス会議 in Kyoto 2003」(日本)「島の千歳」出演、04年“Kimono Series”プロデュース・公演、海外公演など多数。

### advice points

- 会場は、和室、または土足厳禁の場所を準備する。
- 受講生は、着物(浴衣)と白足袋着用が望ましい。扇子もあればなお良い。

### 目的

- ・日本舞踊の体験を通じ、日本の伝統文化の心と魅力を知る。
- ・外国の人たちと互いに価値観を認めあい、真の文化交流とは何かを考える。

### 効果

- ・日本舞踊の動きや心を知り、伝統芸能を愛し尊重する心を育てる。

### 到達点

- ・作法・着物の着付け・扇子の使い方を学ぶ。
- ・伝統的な表現芸術において重視される精神を学ぶ。



### 事前学習

日本舞踊のビデオを鑑賞する。

### ワークショップの流れ(2日間×2コマ/日)

やさしい英語を使って、講師と日本文化についての問答や自己紹介



着物(浴衣)に着替えて、扇子の持ち方、あいさつの仕方を学習



講師の踊り(「藤娘」など)を鑑賞



グループに分かれて稽古をして、発表



講師からアドバイス、質疑応答

### 事後学習

中村勘三郎の「藤娘」の舞台をビデオ鑑賞。

### …ワークショップを実施して…

#### 講師の感想

すべての生徒たちから、異口同音に「日本舞踊や外国のことに純粋に興味をもった」と聞いて、ワークショップの効果が実感できた。これまで意識していなかった日本文化の側面を発見・理解したことで、伝統文化により興味をもつきっかけになったと思う。生徒たちとの対話を通じて、私自身も多くを学び、たいへんすばらしい文化交流体験となった。

#### 先生の感想

日本文化にたいへん造詣の深い外国人の講師から教わったことで、生徒たちは、これまで自分たちが日本のことをいかに知らなかったか気づききっかけとなった。同時に、海外に誇れる文化があることを発見できた。日頃ほとんど着ることのない浴衣を着て、英語で踊り方を教わるという非日常的体験は、生徒たちの心に深く刻まれたことだろう。

#### 生徒の感想

- ・伝統文化の知識が浅いことにショックを受けたが、日本舞踊に興味をもてた。
- ・踊るのには集中力と表現力が、観るのには想像力や感じる力が必要とわかった。
- ・日本舞踊は音にハマるとカッコイイので、今後の表現活動などに活かしたい。
- ・浴衣の着方とたたみ方を覚えた。楽しいので自分で着られるようになりたい。

### より発展的なワークショップを実施するために

- 英語の授業の一環として実施し、日本文化について英語で話してみることで、伝統芸能への理解とコミュニケーション能力の向上に役立てる。
- 日舞以外の日本の伝統芸能について調べる。
- 日常生活の中でも、浴衣や着物を着る機会をもつ。